自ら学び、考え、行動する

若浜の子ども

令和２年７月３日　第６号

小さな親切運動「あいさつ運動推進学校」

今年度若浜小学校は、小さな親切運動の「あいさつ運動推進学校」の委嘱を受け、活動することになりました。６月 30 日（火）には、酒田「小さな親切の会」前田直己代表から依頼書、活動助成金、のぼり、たすきをいただきました。

1963 年（昭和 38 年）３月、東京大学の茅誠司総長（当時）が卒業生に向けて 「教養高き社会人の道は“小さな親切”の実践にある」との言葉を贈ったのがきっかけとなり、「小さな親切運動」がスタートし、現在では 33 都道府県に県本部、141 市町村に支部が結成されています。 山形県本部では特にあいさつの輪を広げることを重点としています。

委嘱状の贈呈式では、代表の前田さんから子ども達に「朝の挨拶は君たちと家族のどちらが先にしてる？」との問いかけがありました。式に参加した４名の児童のうち「自分からしている」という子は１名でした。子どもたちの答えを受けて前田さんからは「君たちの方から挨拶してごらん。きっとお父さんやお母さんは喜ぶよ。」と励ましの言葉をいただきました。

前回の学校便りに書いたように、交通指導員さんや安全サポーターさんへの朝の挨拶はマスクをしていることもあって、声の大きさ、表情ともに、若っ子としては残念な印象です。また、中学生や自転車通学の高校生の方が、元気があるというのは不思議です。はつらつとした元気な挨拶ができる若っ子に育てるために、ご家庭での声掛けもよろしくお願いいたします。

教科書が変わってどうなった？

前回の学校便りで、音楽の授業でＰＣを使うことが当たり前になったことをお伝えしました。今週は６年生の音楽の授業を見て、時代が変わったことをまた感じさせられました。

ヘルベルト・フォン・カラヤン

学習内容は、ベートーベンの交響曲第五番「運命」（誰もが知っているジャジャジャジャーンの曲）の鑑賞です。これまで、鑑賞というと楽器の音色だとか、中心になる旋律などが中心でしたが、この授業では指揮者と楽団の違いによる演奏の違いを感じ取るという授業でした。この交響曲第５番は、今までは中学校の鑑賞曲でした。それが小学校の教科書に出ていることだけで驚きだったのですが、なんと指揮者の違いを鑑賞するとは！本当にびっくり。

レナード・バーンスタイン

まず、ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮のベルリン・フィル。次にレナード・バーンスタイン指揮のウィーン・フィル。２０世紀のクラシック界のライバル関係にあった指揮者と楽団。これまでの学習指導要領と小学校の教科書では考えられない学習です。授業後どっちの演奏が好きか尋ねたところ、７対３くらいの割合で、バーンスタインを支持した子が多数でした。どちらも超一流の指揮者と楽団ですが、子どもたちなりに自分の好みははっきりしていました。

このような学習がなぜ小学校の音楽にあるのでしょうか。それは、今回の学習指導要領では、学校での学習が現実の生活や将来の生活につながるようにするという大きな目標があるからです。指揮者による解釈や指揮ぶりの違いを楽しむという趣味としての音楽鑑賞を６年生にも体験させようということでしょう。それも動画で楽しむというところが現代流です。それにしても、こんな高度なことに言葉でこたえられる６年生もすごい！子どもたちの感性には、大人が知らない秘められたものが、まだまだありそうです。

子どもたちが気づいたこと　♪♪♪♪

＜カラヤン指揮、ベルリン・フィル＞

○ 目をつぶって、きびしい表情で指揮をしている。　○ 力強い。

○ 強弱がはっきりしている。　○ 音の特ちょうを体で表現している。

○ 普通の２拍子で上下に振るんじゃなく、自分の思いでいろいろやっている。

＜バーンスタイン指揮、ウィーン・フィル＞

○ 動きも演奏もなめらか。　○ 楽しそう。　○ 演奏者に細かく指示を出している。

○ 節と節の区切りがはっきりしている。　○ テンポがカラヤンより遅い。

○ モチーフのジャジャジャジャーンのフェルマータを長くとっている。